

## プログラム・キーワード 14 サークル

	部署名	サークル名	テーマ	結果
★ 課題達成型・問題解決型 QC ストーリー				
1	機能訓練室	主任会	時間を意識しよう	
2	透析室	キドニーズ QC サークル	透析患者の バスキュラーアクセスを守れ！ VA 管理プログラムの作成と運用	
3	外来	Miyamoto.Children	小児科患者数あつぷつぶ	最優秀賞 (全国大会)
4	薬局	TEAM あべれーじ 還暦	小さなことからコツコツと	
5	北 3 病棟	ノーススリー	「患者様の私物紛失ゼロを 目指して」 ～探し物は何ですか？見つけにくい 物ですか？～	
6	北 1 病棟	あれご制作委員会	肺炎球菌ワクチン接種率向上と 2 回目接種忘れをなくすためには	
7	南 1 病棟	臭い番長	～環境改善～ 快適な職場環境・患者の生活環境の 向上を目指して	
8	南 2 病棟	Second South	褥瘡 0 を目指して ～確実に有効な体位変換の実施～	優秀賞
9	中央 3 病棟	いっだけっ！！	清潔ケアを充実するために	
10	中央 4 病棟	unity	効果的な退院支援を目指して ～多職種連携と情報共有への 取り組み～	優秀賞
11	中央 5 病棟	押し活部	カンファレンス時間を確保するには	
12	地域医療 連携室	上がり框	スムーズな転院を目指したい！！ ～確認事項とダイレクトコールの 活用～	
13	放射線室	X-ray QC サークル	案内表示の改善	
14	医事課	レセプト返戻に ドッキドキ！	外来の「返戻・査定」の改善に ついて ～病名漏れをなくすには～	

令和7年1月11日

BSC：業務プロセスの視点：QCの推進

「業務改善活動の活発化(部門横断的活動と全国大会発表)」

第16回QC活動発表会・投票結果及び、アンケート調査の分析報告

QC担当 放射線室技師長 浜崎孝一

\* 投票結果について

当日参加 80名 抄録参加者 184名 有効投票数 264 無効投票数 0

第16回QCサークル活動発表会 投票結果

演題No	部署名	サークル名	テーマ	投票数	
3	外来	Miyamoto.Children	小児科患者数あっぷっぷ	130.2	最優秀賞
8	南2病棟	Second South	褥瘡0を目指して ～確実に有効な体位変換の 実施～	127.0	優秀賞
10	中央4病棟	unity	効果的な退院支援を目指して ～多職種連携と情報共有への 取り組み～	123.3	優秀賞

以下省略

〃

〃

〃

〃

開票日:令和6年12月24日(火) 開票及び担当者名:永長、塚本、海老原、池田、正慶、高塚、飯塚、小泉、浜崎

結果、上記のごとく、「外来」が最優秀賞。

\*アンケート結果について

1. 参加者の声は、20件。貴重なご意見ありがとうございました。

たくさんのご意見の中からいくつか取り上げたいと思います。

① QC活動が働きやすい環境に繋がり質の向上に繋がることに期待します。

QC活動は課題、問題を各部署で取り上げそれに対する取り組みを実施する活動です。いろんな意見を出し行動することが重要です。その結果、業務の効率化に繋がり医療の質も向上し働きやすい環境を整備することが可能となります。各部署で実施されたQC活動を是非QC活動発表会で発表していただき他部署でも取り入れられるものはどんどん取り入れ役立ててもらえればと思います。

② 現場における改善は必要であり、問題解決に向けての学習は意義があるはずです。

部署毎に違いはあれ常に改善出来るまたはした方が良い問題、課題はあると思われまます。マニュアル通りに業務を実施するのではなく日常業務に疑問を持ちながら仕事に取り組むことが出来れば必然的に改善活動が行われるのではないのでしょうか。問題解決に向けて各部署でQC活動が行われることを期待します。

③ 統計評価を行った方が良い。

今回の QC 活動発表会で統計の仕方次第でより良いデータとなると思われるグラフや表がありました。可能な限り、評価数値化（統計評価）を各部署でしていただければと思います。

\*まとめ

今回の QC 発表は、各部署の活動で、総演題数が 14 となりました。今回は各演題、発表 6 分・質疑応答 2 分で 8 分の持ち時間でした。各演題に関して、職員から活発な質疑やご意見をいただきました。

質疑応答の時間があっという間に過ぎたことは大変喜ばしい限りであります。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、開催するにあたり不安などもありましたが皆様のご協力もあり今回も QC 活動発表会は予定時間内に終わることが出来ました。次回も予定時間内に QC 活動発表会を終える事が出来るようにしたいと思います。

発表内容や表現方法につきましては、QC 手法を用いて出来るだけ分かりやすいスライドを作成していただいたことと、全体的な文字の大きさや色使いの工夫、適度なアニメーションなどを使用している部署もありさらに理解しやすくなっていたかなと思いました。

しかし、ご意見にもありましたが評価数値化（統計評価）に関して次回発表する部署は検討していただいても良いかと思えます。

結果では、優勝、2 位のポイント差が約 3P でした。今回の QC 活動発表会も稀に見る接戦でした。そんな中、外来が最優秀賞を受賞しました。

今回、外来は小児科患者数が減少傾向になりつつある中でどのようにしたら増加に繋がるかを QC 活動として取り上げました。多方面からアプローチした結果、小児科患者数増加に繋がりました。上記内容を一連の QC 手法を使用して理解しやすくなったこと、グラフや表を用いたことで、さらに理解しやすい内容にしたことが今回の成果に繋がったのではないかと思います。

アンケートでは、今回の発表会の内容について「実りあるものであった」が 74.3%→62.3%、発表会の視聴については「充分視聴出来た」が 64.9%→54.5% となりました。「何も得るものは無かった」が第 15 回 QC サークル活動発表会に引き続き 0%(0 件)となりました。QC サークル活動の実践について「やりたくない」が 5.2%(11 件)→6.8%(16 件)と微増となりました。

→今後の課題として検討

最後に、忙しい日常業務の中、時間を割いて各部署で QC 手法を用いて QC 発表に向け準備して下さった職員の皆様、ありがとうございました。今回、14 演題あり前大会に引き続き演題数が 10 を越えとても喜ばしいことであります。

各部署でたくさんのテーマがある中で様々な角度から物事を捉え、優先順位をつけて活動して下さったのではないかと思います。QC活動を行った各部署は、日々の仕事を円滑に進められ、意欲的に取り組めるようになっていると思います。QC活動に取り組むことは、自己の成長に繋がることは勿論ですが、今後活かせることは言うまでもありません。また、このQC活動発表会を開催することで、他部署のQC発表の良い箇所を見習って日常業務に取り入れてもらえれば、病院全体の医療の質の底上げにも繋がります。今回、発表しなかった部署また出来なかった部署は次回のQC活動発表会で改善に取り組んだ内容をQC手法でまとめて発表して下さることを期待します。

QC活動発表会は今後も継続していきますので、院長やQCメンバーを始め、皆様のご協力をよろしくお願いします。

※最優秀賞はQC全国大会(令和7年11月中旬予定)で発表していただくこととなっております。詳細が決まり次第お知らせしますので担当者の方はよろしく  
お願いします。

外来 Miyamoto.Children 最優秀賞おめでとうございます!!

